

◆ 「道教針灸」

2013 年の 3 月に黄碧松先生の診療所を訪問したときに、同席されていた黄先生の弟さんの黄桂全先生から『道家速効針灸医案』という書籍をいただいた。それを帰国後、学会事務局長の瀬尾港二さんが追試されたら、たいへんよく効いたので、今回の訪問中にぜひお会いしたいということで、取材することになった。

以下は黄碧松先生の解説。

台湾の道家針灸

黄碧松

台湾中医肝病医学会理事長

1. 台湾では道教は今日どのような形で存続しているか

道教は広義的には「道」をもって衆生を教化するものをいう。古代中国では、諸子百家はみな自分の理論と方法を「道」と称していた。儒家、墨家、道家、陰陽家、仏教もみな「道教」と自称する。狭義的には道教は「道」を最高の信仰、老子を教主、『道德経』を主経典として、修練によって長寿成仙に到達できると信じる一種の宗教である。道教は中国古代宗教信仰のうえに、仙道と黄老道が加わり道教観念や修練方法が形成された。後漢時代にはほぼ確立する。道教は中国固有の宗教であり、中華民族の代表的文化といえる。

丹鼎派は性命双修し坐・服・食・辟・穀によって超凡入聖・羽化登仙の目的を達することを目指す一派であり、道教の修練道派といえる。この派は内丹と外丹の修練と研究に従事する。このような修練をするものを練気士といい、かれらが坐禅・内省を通じて中医の経絡走行を発見感得したのであり、中医と道家は密接な関係を有する。

符籙派は主として飛符演法、斉樵祈禳、拝章礼斗を行って病を治し厄を払い、人を救い霊を制御することを目的とする。道教の祈祷道派である。中医との繋

がりはない。

台湾、澎湖、金門、馬祖には玉帝廟、関帝廟、媽祖廟、玄帝廟、太子元帥廟、蘇府王爺廟など道廟が 8,000 箇所、民間で造営される中型の道壇が 10,000 箇所、伝道師 28,000 人、信者は 8,000,000 人にのぼる（全台湾人の 3 分の 1 以上）。この数字は仏教徒と重なるところがあるが、台湾で道教がいかに大きな影響力をもつかがわかる。

2. 道教と道家の違い

道教は長生不老を最高信仰とする中華民族固有の宗教である。神仙不死の道で信者を教化し、修養錬成によって道德品行を養い、長生成仙して最後には解脱し永遠の生を目指すよう指導する。道家が中国哲学史上の一流派であるのに対して、道教は宗教である点が両者の違いである。両者の間には密接な関係性もある。道家思想の核心「道」は道教によって受け継がれまた改造されてきたし、道家の創始者老子は道教の太上老君であり、『道德経』や『莊子』は道家の典籍であると同時に、道教の「真経」でもある。道教は道家のものを継承し改造してきた。その継承こそ道家とのつながりを示している。

3. いわゆる道教針灸とは

中医薬学と針灸は中華民族文化の宝であり、独特の道教文化において、一貫して歴代の多数の高道大師たちが積極的に研究し開拓した重要な領域の 1 つである。中華民族の歴史を紐解けば、中医薬学の発展に大きな貢献をした巨星が多数いるが、なかでも道教大師たちの功績は特別に大きい。晋代著名な道士医学家・葛洪は、あまねく見聞を集め、著わした著作も多いが、古代化学の最初の開拓者でもある。中医薬学研究における功績は卓越したもので、歴代の道教信徒の憧れの的であるとともに、世々代々の人々にとって尊敬のまともでもあった。よく見れば、歴代の道教の多くの大師は理論面だけでなく実践面でも中医薬学に積極的な影響を残している。道教の経典『道蔵』は『黄帝内経』の内容を取り込んでおり、三国時代の道教界の名医華佗や張仲景とともに「建安の三神医」と称された董奉の医術は高いものであり、道德も高く、古くから尊崇されている。南朝の著名な道士で道教茅山宗の開祖・陶弘景（465～536 年）も練丹家であり医学家でもあった。『刀創録』『真入水鏡』『握鏡』『鏡農本草集注』などを著している。唐代の孫思邈の『千金要方』や宋代の馬丹陽の『天星十二

穴治雑病歌』もみな道家修練者の医術の結晶であった。霊亀八法・子午流注・運氣医学は、道家が開発した極めつけである。

医学の面から言えば、人類の社会発展史は人類と疾病との戦いの歴史でもある。抑悪揚善、防治疾病、強身健体、延年益寿は人類の生存と発展の共通の願望である。道教は、人類社会の 1 つの構成部分であり、道教と中医薬、針灸は自然と融合するのである。道教が中医薬の研究と運用に力を入れたのは、まさにこの一点にある。

道教の宮観や茅庵がみな風光明媚な名山大川、洞谷幽静の場所にあるのは修行に適しているからであるが、また人里から離れたところでは医療も受けられない。修行の目的を達成するには、自ら医療をもつことが不可欠であった。また、民衆への伝導の手段として中医薬は最も現実的で説得力をもつものであった。道教が今日まで生命力を持ち得たのは中医薬の力と切り離すことができない。

4. 台湾には道家針灸はいつ頃導入されたか？ 台湾で独自の発展があったのか？

台湾の中医薬はいうまでもなく中国大陆を源とする。中医薬と道教は成り立ちから密接な関係にあり切り離すことは難しい。中医薬は本来的に針灸と一体のものであるから、台湾針灸医家のなかで道教医学とあらためて名打って名前を上げたものは少ない。われわれは習慣的に針灸従事者を「〇〇道長」と呼び合うことがある。ごく少数のもので、『易経』研究を究めて「道医」と自称しているグループもいる。

また「通霊者」と称している人々がいる。神秘的な力を授かって医薬針灸をやっている。八仙孚佑帝君呂洞賓真人、保生大帝吳真人、齊公、媽祖、金母娘娘などから神秘の力を授かっているのだという。そのほかに宮廟の主事らが中医薬や針灸治療を兼ねて伝導活動をしているが、彼らは科学とは関係のない人たちだ。

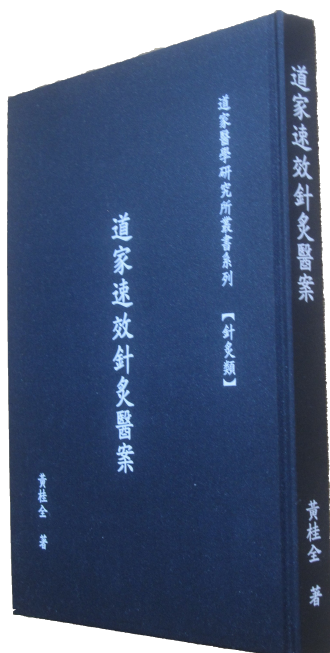
(山本勝司記)



黄碧松先生の診療所にお邪魔して



道家針灸の専門家
黄桂全先生



黄桂全先生の著書
『道家速効針灸医案』